

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-18	小学校	国語科	書 写	第一学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	書写 105	しょうがくしょしゃ 一ねん		

1. 編修の基本方針

書 写 で 育 む

「言葉の力」

教育基本法の趣旨をふまえるとともに、小学校学習指導要領に示された内容を基準にして、知識基盤社会にある児童の生きる力を重視しました。

そして、より豊かで確かな書写力を育むため、基礎・基本の確実な定着、考えて書く力の育成、日常生活にいかす応用力を身につけることを目指して編集しました。

書写の学習を通じて、書くことの知識・技能を習得するにとどまらず、「言葉の力」が育まれることを意図しました。



基本方針

1

基礎・基本が しっかり身につく教科書

学習指導要領に示される基礎的・基本的事項が着実に身につけられる教科書を目指しました。文字を正しく整えて書く「原理・原則」を知り、学びの過程や自己評価を通して自己の学習能力を知り、能力の向上を図ることができるようになりました。

基本方針

2

子ども自ら 考えて書く力を育む教科書

「書写は楽しい!」と実感できる教科書を目指しました。子どもは本来、文字を書くことが大好きです。各学年の発達の段階に即した段階的・系統的な単元構成と教材配列によって、自ら見通しを立てて学習を進めることができるようにしました。

基本方針

3

学びを日常に いかす力をつける教科書

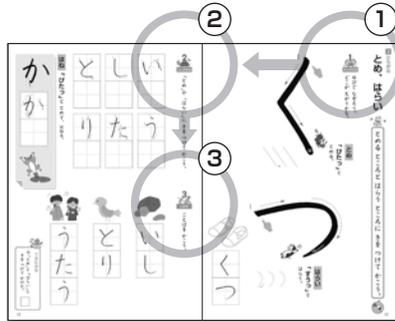
日常に役立つ教材や資料を、国語科をはじめとする他教科や総合的な学習の時間などと関連させることで、楽しく幅の広い学習活動にいかされることを目指しました。文字を書く場面や目的を意識し、その状況に応じて適切にいかす力を身につけられるようにしました。

基礎・基本がしっかり身につく教科書

現行の教科書をベースに、さらに「教えやすく・学びやすい」紙面となるよう、子どもの学びを助ける教材作りを心がけました。

学習過程の3ステップ

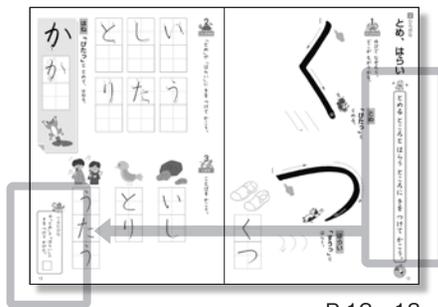
各学年の主教材は、一つ一つの教材を「①かかんがえる→②たしかめる→③いかす」の段階をふみながら学習できるように、学習過程を明確にしました。



P.12・13

めあてに対する自己評価

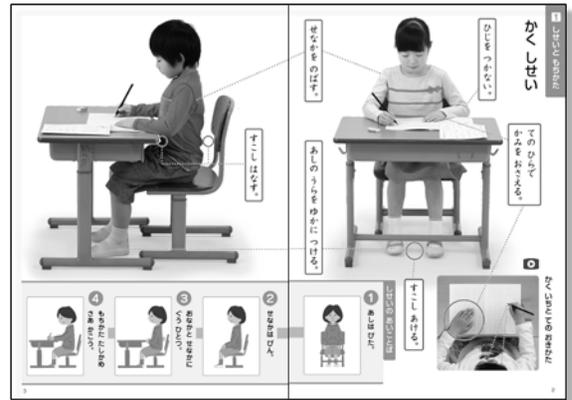
各教材にはめあてと自己評価欄を設定し、主体的な学習を促した後、達成感を味わえるようにしました。



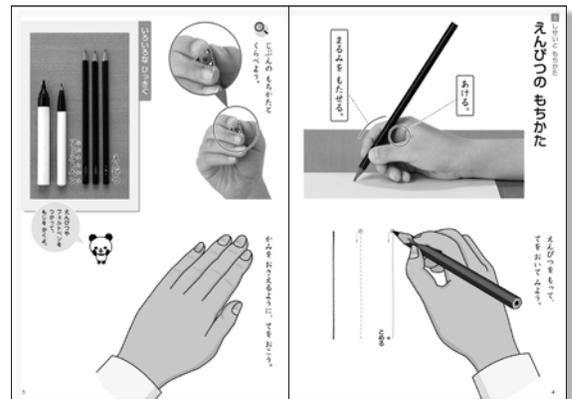
P.12・13

わかりやすく、ていねいに

書写の基礎・基本である姿勢・持ち方は、大きな写真を用い、ポイントとなる解説を明示することで、子ども自身がいつでも確認できるようにしました。



P.2・3



P.4・5

子ども自ら考えて書く力を育む教科書

各学年の発達の段階を考慮して、考えて書く力（確かな書写力）を身につけるために単元のねらいを焦点化し、系統的に学習できるように構成しました。

単元構成について

- 当該学年の学習内容をいくつかの大きな単元に分けて、基礎・基本の力を効果的に身につけられるようにしました。
- 最終単元は、一年間の書写学習を振り返り、学習したことをいかしながら取り組むことのできるまとめ教材を設定しました。
- 各単元の教材でどんなことを学習したのかを確認して終わりではなく、他教科や総合的な学習の時間、日常生活で活用するための特設ページ（言葉の窓、国語の広場、生活と書写）を充実させました。

学習のオリエンテーション

「このきょうかしのつかいかた」では、教科書を用いた学習の流れや方法を、子ども自身が学び、主体的に学習する力を身につけられるようにしました。



P.8・9

基本方針

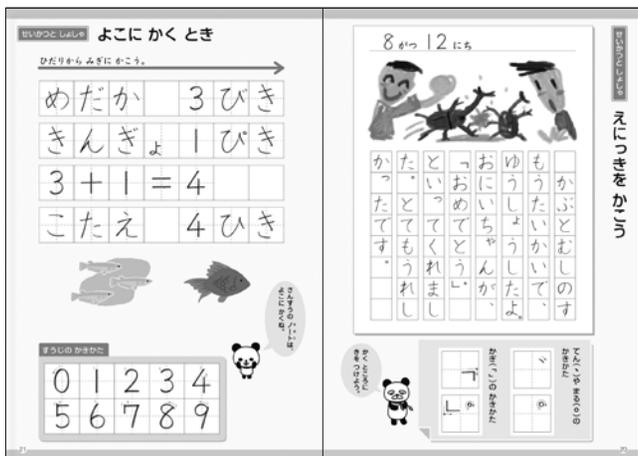
3

学びを日常にいかす力をつける教科書

単に書写の技能を高めるだけでなく、国語科を中心とした言語活動例を取り扱ったコーナーを各学年に設定し、文字を正しく整えて書くことを様々な場面で活用できるようにしました。

【生活と書写】のコーナー

「伝え合い」を重視して、絵日記や原稿用紙などの書記活動、学級新聞やポスターなどの表現様式、手紙の書き方などを、全学年にわたって掲載しました。



P.20, 21

【国語の広場】のコーナー

文字を書くためだけの書写力ではなく、メモを取るとき、作文を書くときなど、様々な学習プロセスのなかで書写力を活用する場面を想定した教材を設定しました。



P.39・40

伝統と文化を尊重する態度を養う

我が国の文化として継承されてきた書き初めを、全学年で取り上げました。



P.31

学びやすさを考慮した字形

手本文字は、小学校学習指導要領「別表 学年別漢字配当表」に示される字形をよりどころとしています。硬筆と毛筆の整合性を図り、子どもたちが手本とするのにふさわしく、学びやすい字形にしました。

水 水

社会の持続可能な発展のために

- 各学校での道徳教育の指導内容が子どもの日常生活にいかされることを願って、道徳的心情を育むことのできる題材を数多く掲載しました。
- 健康で安全な日常生活を送る資質や能力を育てるために、災害時の危険や自らの安全を確保する行動の重要性を意識させる題材を扱いました。
- 日常生活には、文字を「手で書く」様々な機会があります。活字と手書き文字の違い、筆記具の種類や特徴を考えることで、文字を「手で書く」意義について考えられるようにしました。
- 片仮名による表記を目にする機会が多くなった日常生活を考慮して、平仮名・漢字・片仮名を偏りなく学習できるようにしました。



2. 対照表

教育基本法 第二条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>第一号</p> <p>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<p>①各教科の学習の基本となる国語の基礎的な知識として、文字の正しい書き方が身につくよう、段階的・系統的に提示した。</p> <p>②書く姿勢や筆記具の持ち方に関する写真を大きく提示し、書写に限らず日常の姿勢も整えられるように配慮した。</p>	<p>①P.10～19「ひらがな」 P.23～29「かん字」 P.32～35「かたかな」</p> <p>②P.2～5「しせいともちかた」</p>
<p>第二号</p> <p>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<p>①児童の興味・関心を高め、自主的・自発的な学習が促されるように、めあてや自己評価などを設定した。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを支援するために、具体的な学習の進め方を提示し、児童自らが学習方法を身につけられるようにした。</p> <p>③自他を認め合ったり、周囲に対する感謝の気持ちやあいさつを表現したりできるようにした。</p>	<p>①全般にわたって</p> <p>②P.8・9「このきょうかしよのつかいかた」</p> <p>③第2表紙・P.1「もじをさがそう」 P.39・40「あったことをスピーチしよう」</p>
<p>第三号</p> <p>正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①男女平等に配慮し、児童の名前やイラストに偏りがないように留意した。</p> <p>②日常生活の中のいろいろな書式の中から、絵日記や年賀状などを取り上げた。その書き方の知識が身につけられるようにするとともに、他者への思いやりの心を学んだり、感じたりすることができるようにした。</p>	<p>①全般にわたって</p> <p>②P.20「えにっきをかこう」 P.30「年がじょうをかこう」</p>
<p>第四号</p> <p>生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①児童が経験する生活の場から広く取材し、他教科との関連を考慮しながら、身近な動物や植物の名前を題材に取り入れることで、生命の尊さを感じられるようにした。</p>	<p>①全般にわたって</p> <p>P.20「えにっきをかこう」 P.21「よこにかくとき」 P.22「なかまのこばをみつけよう」</p>
<p>第五号</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>①漢字をもとに、我が国で独自に発展した平仮名・片仮名の書き方をわかりやすく示すため、書き文字は正しく整った字形、穏健中正で親しみやすく、明るい書風の表現とした。</p> <p>②新年の伝統的な慣習である「書き初め」を経験し、我が国の伝統文化を理解するとともに、明るい生活態度を養えるようにした。</p>	<p>①全般にわたって</p> <p>②P.31「かきぞめをしよう」</p>

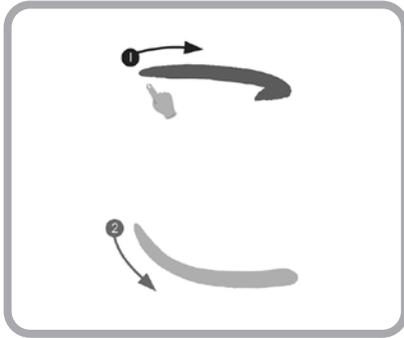
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

安心して学習に取り組めるように

ユニバーサルデザインの観点から

子どもたちは、一人一人多様性にあふれています。できるだけ多くの子どもたちが教科書から等しく情報を取り入れ、学びの楽しさを感じられるように配慮しました。

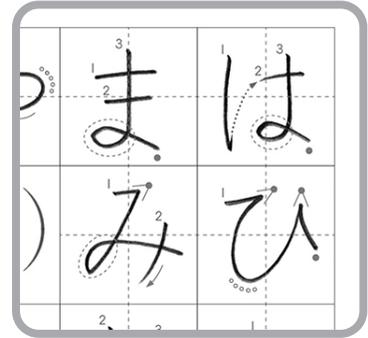
色



P.10

隣り合う色同士が識別しにくい可能性のある部分は、**色の明度に変化をつけたり、白い線を間に挟んだり**するなどの工夫をしました。

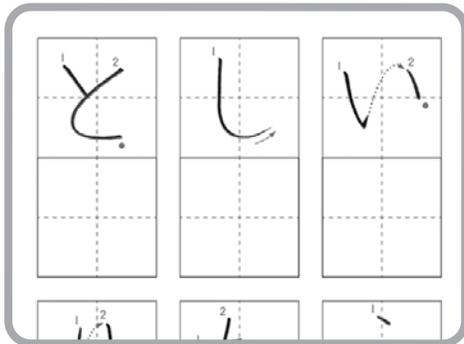
形



P.19

色分けによる示し方だけでなく、**補助線や矢印の形状・太さにも配慮**して、情報を識別しやすくしました。

レイアウト



P.13

書き込み欄を手本文字の下に配置することで、**右利きでも左利きでも、手本を見ながら視写**することができるレイアウトを心がけました。

視覚情報を伝わりやすくするために

- ◇文を簡潔にし、読みやすくしました。
- ◇過剰な装飾や情報の盛り込みすぎを避けるために、内容を整理しました。
- ◇優先順位を考慮して、紙面にメリハリをもたせました。

安全で、安心できる造本

化学物質に過敏な子どもたちが安心して学習に取り組めるように、細心の注意を払って印刷・製本しました。

用紙	環境にやさしい再生紙のなかから、書き込みに適した用紙を選びました。また、手本の文字が美しく映えるように、用紙の白さも重視しました。
インキ	環境と健康にやさしい植物油インキで印刷しました。
堅牢性	教科書の表紙や「みずがきシート」は、長期間の使用に耐えうる作りにしました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-18	小学校	国語科	書 写	第一学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	書写 105	しょうがくしょしゃ 一ねん		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

次世代を担う子どもたちが、生涯にわたって使う文字を正しく整えて書けること、そして学びをもとに豊かな発想で活用する書写力を身につけること、さらには、国語に親しみ、尊重する態度を育むことを願って編集にあたりました。

内容の特色

ポイント①

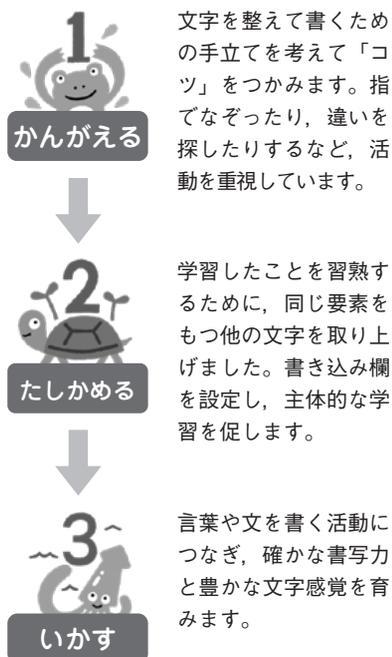
学習過程の明確化

「これからどんな学習をするか」を見通す

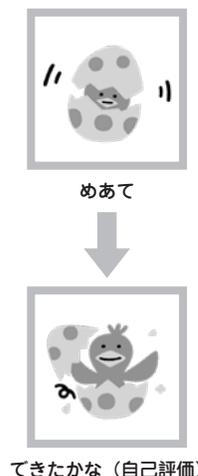
主教材は、「①かんがえる→②たしかめる→③いかす」の3ステップで、段階を踏みながら学習できるように、学習過程を明確化しました。流れにそった学習により、**書写の原理・原則を確実に身につけます。**

「どんな力がついたか」を認識する

全ての主教材に「めあて」と「できたかな」を設定し、子ども自ら学習の達成感を味わうとともに、**学習内容の定着を図りました。**



P.14・15



キャラクターの設定

キャラクターの発言が、子どもたちの「気づき」を促し、**主体的な学習を支援**します。



「何をどう学ぶか」を知る

「この きょうかしょの つかいかた」で**学びの**手順と**学習方法**を知り、繰り返すことで、子どもたちが主体的に学習する力を身につけることができるようにしました。これから何を学ぶのか、何ができるようになるのかを確かめたうえで、見通しをもって学習に入れるようにしました。どんなプロセスを経て学ぶかという学習方法そのものが身につくようにすることで、子どもたち自らが学習方法をメタ認知できるようにしました。



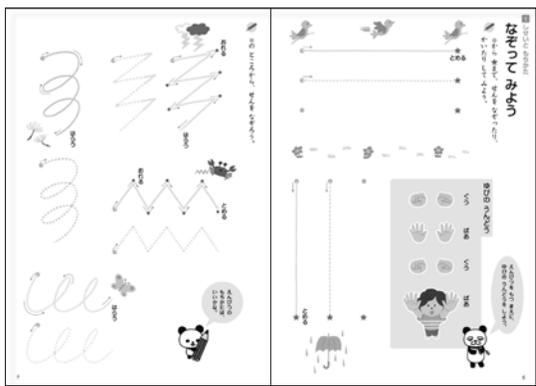
P.8・9

ポイント② 関心・意欲を高める工夫

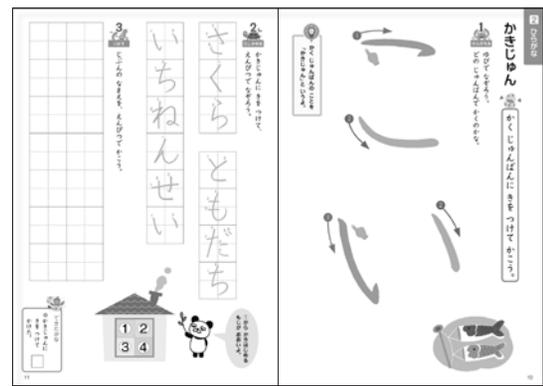
活動を重視した紙面構成

幼小連携に資するものとして線遊びを取り入れ、文字の基礎・基本となる書写活動につながるようにしました。

教科書への書き込みやなぞり書きを提示し、**学びやすさ・教えやすさ**を意識しました。



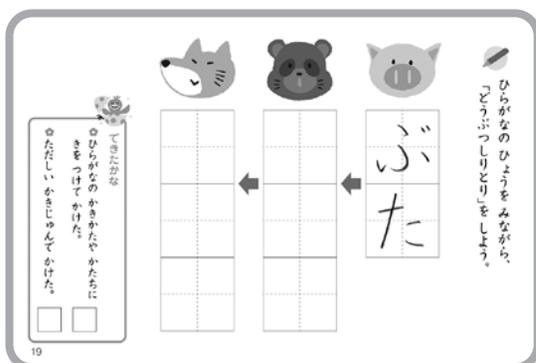
P.6・7



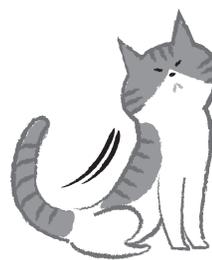
P.10・11

考えながら楽しく学習

文字に親しみをもつことができるように工夫しました。遊びを取り入れるなど、子ども一人一人の関心・意欲を高めながら、学習活動を進めることができます。



P.19



「そり」のイメージ



「はね」のイメージ

ポイント③

水書用紙の活用

繰り返し学習できるように



第3表紙・P.40

付録

「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導について、**水書用筆等を使用した運筆指導**を取り入れられるように、一・二年の教科書に「みずがきシート」(水書用紙)を貼付しました。

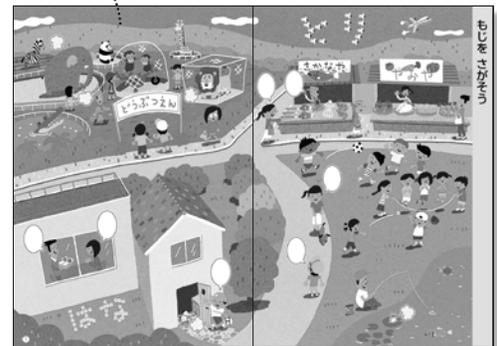
左のマークがついている教材では、「みずがきシート」を活用することで、運筆の学習効果の向上が期待できます。時間の経過とともに筆跡が消えるという特性をいかし、繰り返し練習することは、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながります。

ポイント④

国語との連携

語彙指導の充実

全ての教科の資質・能力を育成したり、学習の基盤となる言語能力を支えたりする**語彙**を、書写の側面から扱った「ことばのまど」コーナーを、各学年に一つずつ、系統的に設定しました。



第2表紙・P.1

P.22

言語活動の重視

国語科における三領域の**言語活動例**を具体化した「こくごのひろば」コーナーを、各学年に一つずつ設定しました。

核となる言語活動のなかに、書写的要素を織り交ぜています。どんな視点で国語と書写がコラボレーションすればよいかということの例示でもあります。



P.39・40

本教科書の特徴表

観点		内容の特徴
① 内容の取り扱い	教育基本法との関係	○教育基本法に示された教育の目的および教育の目標に即し、書写学習を通して、児童が学習意欲や興味・関心を高めながら学習活動に取り組み、確かな学力、豊かな心、生きる力を育む内容としました。
	学習指導要領への準拠	○国語科の学習指導要領に示された目標に従い、各学年の目標と内容および内容の取り扱いに示される事項をもれなく取り上げました。児童が書写力を習得、活用できるように、基礎・基本となる知識・技能を的確に押さえて編集しました。 ○「話す・聞く、書く、読む」の3領域に示される言語活動例を、具体的な教材として取り上げました。
② 構成・配列	単元配列と紙面構成	○児童の発達の段階や学年の特性などを考慮し、学習内容が易から難へ段階的・系統的に配列しました。また、単元間・学年間の連携を図り、積み重ねながら学習を進められるようにしました。 ○紙面は、学習課題を明確化・焦点化し、学習内容が一目でわかり、児童が抵抗感なく学習に取り組めるように配慮しました。 ○国語科の目標を達成するために、教科書への書き込みやなぞり書き、2色で書いた毛筆文字を示すなどして、「学びやすさ・教えやすさ」を意識しました。
	学習過程の明確化	○「①考える→②確かめる→③いかす」の3段階の学習コーナーを設定し、学習過程を明確にしました。流れにそって主体的に学習することで、書写の原理・原則を楽しく身につけられるように工夫しました。
	水書用紙の活用	○硬筆で適切に運筆する能力の向上と、習慣の定着につながるように、一・二年に水書用紙（水書きシート）をつけました。
③ 程度・分量	基礎・基本の重視	○平仮名・片仮名・漢字を偏りなく学習できるように、硬筆・毛筆教材ともに基礎・基本を徹底しました。児童の発達の段階を考慮し、学習要素が焦点化された文字や語句を用い、ねらいやめあてを明確にしました。 ○手本の文字は、硬筆・毛筆とも自然な運筆で無理がなく、明瞭で理解しやすい筆使いとすることで、親しみやすく理解しやすい書風としました。また、学習指導要領の「学年別漢字配当表」をよりどころとした字形は、硬毛の整合性も図り、書写技能の定着に適した表現としました。
	学習計画への配慮	○教材内容や教材数は、児童の発達の段階や語彙などを考慮して精選し、年間30単位時間程度でも無理なく学習できるように配慮しました。
④ 特色・工夫	主体的・対話的で深い学びへの支援	○各教材に「めあて」と「できたかな」を設定し、児童自らが学習の成果を確かめられるようにしました。 ○学習のオリエンテーションを担う「学習の進め方」を明示し、教科書を用いた学習の手順や方法を知り、児童自身が主体的に学習する力を身につけられるように工夫しました。 ○教材内容のほとんどを児童の身近な生活（学校生活、学校行事、日常生活）から取材し、実際の生活や学習活動に役立つ内容としました。
	他教科等との関連と、言語活動の充実	○「国語の広場」という特設ページを設定し、児童が文字そのものに興味・関心をもち、さらに文字について追求しようとする態度を育んだり、書写で学習したことを国語をはじめ他教科や総合的な学習の時間などとの関連の中でいかしたりすることができるように配慮しました。 ○国語科はもとより、その他の教科や学校行事などとも関連を図りながら、道徳性を養える題材を扱いました。
	日常生活への活用	○「生活と書写」という特設ページを設定し、手紙の書き方や原稿用紙の使い方、学級新聞の書き方などを取り上げ、日常生活への活動例を示しました。
	人権的な配慮	○教材作成においては、人権尊重の精神を重視し、また、社会の進展や時代の要請に応じて、環境や福祉、国際理解などに関する内容の題材を取り上げました。そのことにより、児童が今日的な課題に興味・関心を高め、知識を深めたり、他者を尊重する心情を養ったりすることができるようにしました。
	伝統・文化の尊重	○文字に対する興味・関心や知識を深めるため、文字の成り立ちや歴史、筆・墨・硯・紙の資料を提示したり、古典や書き初めを教材として取り上げたりして、我が国に継承されてきた伝統と文化に親しめるように工夫しました。
	防災教育との関連	○防災を素材にした内容を扱い、児童が安全を確保する行動の重要性を意識できるように配慮しました。

⑤ その ほか	ユニバーサルデザイン への配慮	○できるだけ多くの児童が扱いやすい教科書とするため、特別支援教育を専門とする著者の校閲を受けました。図の大きさや配色、補助線の示し方など、ユニバーサルデザインに配慮して製作しました。
	安全な印刷	○化学物質に過敏な児童のために、植物油インキを使用し、健康にも環境にも影響の少ない、やさしく安全な印刷としました。 ○再生紙を用い、硬筆・毛筆ともに筆記具としての書き味が出るように、精密な印刷を心がけました。
	堅牢な造本	○製本は、針金3箇所綴じで、長期間の使用にも耐えられる堅牢な造本としました。

2. 対照表

図書の構成				学習指導要領との関連		三学期制	二学期制
P.	単元名	教材名	配当時間	(3)我が国の言語文化に関する事項	内容の取扱い		
表②・1	もじをさがそう			ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)イ	一学期	前期
2・3	①しせいともちかた	かくしせい	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
4・5		えんぴつのもちかた		ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
6・7		なぞってみよう		ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
8・9	このきょうかしょのつかいかた		1	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
10・11	②ひらがな	かきじゅん	2	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
12・13		とめ、はらい	2	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
14・15		おれ・おりかえし、まがり	2	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
16		むすび	1	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
17		かたち	1	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
18・19		ひらがなのひょう	2	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
20		せいかつとしょうしゃ	えにつきをかこう	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)イ	
21	せいかつとしょうしゃ	よこにかくとき	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)エ		
22	ことばのまど	なかまのことばをみつけよう	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)ア,イ		
23	③かん字	かきじゅん	1	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)	二学期	後期
24・25		とめ、はらい、はね	2	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
26・27		おれ、まがり、そり	2	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
28		かたち	1	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
29		かくのながさとほうこう	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
30	せいかつとしょうしゃ	年がじょうをかこう	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)ク		
31	せいかつとしょうしゃ	かきぞめをしよう	1	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)ク		
32・33	④かたかな	かたかなのかきかた	2	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)	三学期	
34・35		かたかなのひょう	2	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
36・37	⑤まとめ	一年生のまとめ	2	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
38	*一年生で学しゅうするかん字(80字) ※硬筆		適宜	ウ(ア),(イ),(ウ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
39・40	こくごのひろば	あったことをスピーチしよう	適宜	ウ(ア),(イ),(ウ)	3(2)ア,イ		
表③	[コラム] かくのかきかたをれんしゅうしよう/もくじ		適宜	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		
付録	みずがきシートでれんしゅうしよう		適宜	ウ(ア),(イ)	2(1)カ(ア),(イ),(エ)		

総時数 30